

<株式会社エフエム東京 第 4 4 6 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成 30 年 3 月 6 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（4 名）

横 森 美 奈 子 委員長	渡 辺 貞 夫 委員
内 館 牧 子 委員	川 上 未 映 子 委員

◇欠席委員（2 名）

秋 元 康 委員	ロバート キャンベル 委員
----------	---------------

◇社側出席者（10 名）

富木田	代表取締役会長
千 代	代表取締役社長
平	専務取締役
吉 田	常務取締役
村 上	取締役営業局長
西 川	常勤監査役
森 田	執行役員編成制作局長
	兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長
延 江	営業局エグゼクティブ・プランナー
宮 野	編成制作局編成部長
若 杉	編成制作局制作部長(オブザーバー)

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 20 分）  
『ピョンチャン冬季オリンピック特集』  
2018 年 2 月 17 日(土)～24 日(土)

≪議事内容≫

議題 1:最近の活動について

■ピョンチャン五輪応援企画『アスリートたちの Cheer Up SONGS』実施



TOKYO FM では、ピョンチャン五輪へ音楽でエールを贈る企画『アスリートたちの Cheer Up SONGS』を2月23日まで実施いたしました。フィギュアスケート男子、羽生結弦・宇野昌磨、主将をつとめたスピードスケート女子の小平奈緒、旗手をつとめるスキー・ジャンプ

男子の葛西紀明をはじめ、スキー・ジャンプ女子の高梨沙羅、スピードスケート男子の加藤条治、カーリング女子「LS 北見」男子「SC 軽井沢クラブ」など、ピョンチャン五輪に出場する49選手の「試合前に聴く曲」「心の支えとしている曲」をTOKYO FMが独自取材し、平日の生ワイド番組を中心に選手のコメントとともにオンエア。FM局ならではの音楽企画でピョンチャン五輪を盛り上げました。

また、TOKYO FMアナウンサー・ディレクターがピョンチャン入りし、現地の様子、日本人選手の活躍、メダリストたちの肉声を現地から中継でお届けしました。

【Cheer Up SONGS 楽曲リスト一部】

競技	選手名	アーティスト名	曲名	理由など
フィギュアスケート 男子	羽生結弦	阿部真央 BUMP OF CHICKEN 和田光司	戦いは終わらない 夢の飼い主 風 ～re-fly ver.～	①自分自身を鼓舞・代弁してくれるような曲。『自分に自信を持っていいんだよ』と思える。②BUMP OF CHICKENは全曲歌えるくらい好きですが、何よりも今回は夢の舞台ということで、曲の主人公がだんだん夢に味付けをしていってしまう感じがちょっと自分にあてはまって。ずーっと『これが夢だ！』と思っていたからこそ、いつのまにか純粋な気持ちを忘れてしまってたな、ということ思い返すことができた曲。③翼とか風とか、向かい風の中を飛んで行くような、そんなイメージが強くある曲。
	宇野昌磨	RADWIMPS	前前前世	
カーリング女子	藤澤五月	Mr.Children	終わりなき旅	ミスチルが大好き。こごぞという試合の前、緊

		平原綾香	祈り	張しているときに聴く曲。
スピードスケート 女子	小平奈緒	Superfly ゆず	Beautiful	好きな音楽を聴いたり、お風呂に入るのがリラックス方法。気分を高めたいときはゆずを聴く。Superfly「Beautiful」は女性として力強く歩いていくところに共感。ゆずも聴くが、やる気を起こすときは Superfly を聴いている。
	高木菜那	wacci 三浦大知	リスタート Darkest Before Dawn	応援歌で、自分を奮い立たせてくれる。wacci とは仲良くさせてもらっている。(三浦大知は) 歌詞が奮い立たせてくれる。リズムもすごくよく、レースのときモチベーションが上がる。
	高木美帆	wacci	宝物	自分の気持ち通じるものがあつた。いろいろな曲を聞かすが、この曲は平昌でもたぶん聴く。
スキー・ジャンプ 女子	高梨沙羅	miwa	don't cry anymore	miwa を最初に知った曲で、つらいときにこの曲を聴くと、励まされる感じがある。

## ■雑誌『BRUTUS』にて、「山下達郎サンデー・ソングブック」特集号が発売

マガジンハウス発行のカルチャー雑誌『BRUTUS』2月1日発売号で、「山下達郎のサンデー・ソングブック」の特集号が発売されました。当番組は放送25周年を迎え、昨年11月にはTOKYO FMホールでリスナー250名を招いてのスペシャルアコースティックライブを開催。これに続く25周年企画として『BRUTUS』全面協力のもと、この特集号発売に至りました。特集号では「山下達郎のブルータス・ソングブック～最高の音楽との出会い方」と題され、25周年を迎えた当番組の1,300回を超える放送の中から、ジャズやジャパニーズロックといった22のテーマを厳選しての番組書き起こしや、番組年表、さらに山下氏のスペシャルインタビューまで網羅された充実の内容となっております。発売後も大きな反響を頂き、番組宛にもオールドファンのみならず、雑誌を読んで初めて番組を知ったという音楽ファンや新規リスナーからのハガキも多数増えており、これを受けて3月4日（日）放送分では、特集誌面に掲載されている楽曲でのリクエスト企画を実施しました。また、通常『BRUTUS』は約4～6万部の発行部数のところ本号は11万部発行となり、完売書店も続出でプレミア化しています。放送25年の番組人気を裏付けるほどの大きな反響を頂きました。



**【番組名】 『ピョンチャン冬季オリンピック特集』**

**【放送日時】 2018年2月17日(土)～24日(土)**

**【番組概要】**

本日ご試聴いただくのは、2月17日(土)～24日(土)で放送したピョンチャン冬季五輪特集のダイジェストです。日本勢過去最多メダルを獲得したピョンチャン五輪(第23回オリンピック冬季競技大会)。TOKYO FMでは、五輪会期前から出場選手勢へ「試合前に聴く曲」「心の支えとしている曲」=Cheer Up SONGとして独自取材を重ね、ラジオを通じ音楽で盛り上げる『アスリートたちの Cheer Up SONGS』を展開しました。また、現地のピョンチャンに、TOKYO FMアナウンサーの鈴木晶久とディレクターの大江剛史を派遣し、速報や日本人選手の活躍、現地の様子などのレポートを各番組内や特設ニュース枠でお届けしました。

2月19日(月)の『LOVE CONNECTION』では、17日(土)にフィギュアスケート男子でピョンチャン五輪日本勢最初の金メダルを獲得した羽生結弦選手の Cheer Up SONGS を、金メダル獲得直後に取材し、羽生選手のコメントとともにオンエアしました。

■2月21日(水) 21:55 ドライバーズインフォ枠

鈴木晶久アナウンサーより、スピードスケート女子団体パシュート決勝直前の様子

■2月17日(土) 21:55 ドライバーズインフォ枠

フィギュアスケート男子 羽生結弦選手の金メダル獲得後コメント

大江剛史ディレクターによるフィギュアスケート会場の様子

■2月19日(月) LOVE CONNECTION 11:30～11:50 頃

羽生結弦選手の金メダル、宇野昌磨選手の銀メダルをうけ、会場にて鈴木アナが取材した二人のチアアップソングを紹介。

**【委員の意見および社側説明】**

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○私自身、五輪を熱心にテレビ観戦していたわけではなく、食事などの時にテレビをつけたら何かの競技がライブ中継しているという程度の関心具合であったため、今回の試聴素材で現地の様子などを知った部分もあった。特にお客さんの様子などは、笑ってしまうようなエピソードがあったが、テレビと違いフィクション要素も強くなく、素直に面白いなと思った。また、音楽を中心にした構成に関しては、アスリートが何を聴いているのかリスナーも興味があると思うので、曲を流しながら紹介したのは良かった。

○羽生結弦選手の肉声での曲紹介がとても良く、またその取材時のエピソードも、選手のサービス精神が感じられ、好感を持った。

○途中女性がスタジオで中継やコメントを受けたいのは同一人物か。

■別の人物。視聴素材の最初にスタジオで中継を受けたのは局のアナウンサーで、後半にスタジオでコメントを受けたのは、昼のワイドのパーソナリティ。

○後半のパーソナリティのテンションが高かったため、どちらが現地でどちらがスタジオなのかが聴き取り難かった。その差が分からない方が良いという意見もあるかもしれない。

○さすが若いアスリートたちとあって、紹介される曲で知らないものもあった。

○五輪で活躍した選手たちの特集ということで大変楽しませてもらった。今の若い世代のアスリートたちはデジタルサウンドを楽しんでいるんだということが分かった。歌詞（言葉）に惹かれているのかもしれない。

○70年代 80年代の J-POP のような傾向の曲が多かった。

○この企画はリアルタイムでも聴いていたが、とても良い企画だと思った。考え着くことはできそうだが、今までなかった企画だと思う。

○若い世代が聴く曲の歌詞（言葉）が聴き取りにくいなと感じた。

○どの選手も、戦闘態勢や、オンの時に聴く曲だと思うので、曲を選ぶにはそれぞれ理由があると思う。それを聞き出して紹介するのは面白く良い企画。

○現地より中継をしていた鈴木アナウンサーのトーンが、昔の映画ニュースを彷彿とさせるようで良かった。適度でいい。最近このような語りを聴くことが無くなった。前回のソチ五輪の時は、現地からの中継でアナウンサーの「キャー！」という歓声が気になってしまった。喜びの声や興奮は理解できるが、まず伝えて欲しいと感じていたので、今回は本当に良かった。

○スタジオで受けたパーソナリティのテンションの高さは気になった。日本人選手の活躍でハイテンションになるのは理解できるが、もう少し工夫できると思った。

○企画自体は長期に渡ると思うので、この分数に編集するにあたり、主張したいポイントが捉えにくかったが、選手たちの音楽リストは大変興味深く拝聴した。TOKYO FM ならではの企画だと感じた。競技自体に関する情報は五輪開催期間中に溢れていたと思ったが、その選手が聴いた音楽となると新鮮に感じた。これだけの数の選手に取材を重ねていることは素晴らしいと思う。特に羽生結弦選手本人のコメントがあったことも大変素晴らしいと思う。

○リストに掲載されている 49 選手からの曲は全て放送したのか。

■全ての楽曲を放送している。

○リストには知らない曲も多くあったが、逆に、あれだけの活躍をした選手たちのモチベーションのなったのがこれらの曲だと知れたことは大変興味深かった。サビだけでも構わないので全曲聴いてみたかった。

○長期間に渡る企画のどの箇所をピックアップするかだとは思いますが、先ほどアナウンサーのテンションの話題があったが、リアルタイムでその瞬間に聴いているとそんなに気にならないものかと思う。その日の興奮というのはその時に聴かないと分からないものであり、金メダル獲得の瞬間に世間が沸いている状況で冷めているテンションだと、それも違うと感ずるはずなので、断片的なものでは判断できない。欲を言えば、今回の試聴素材で、もう少し曲をたくさん聴きたかった。

○TOKYO FM ならではのオリンピック企画だったと思う。

5.放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「JOGLIS」

3月31日(土) 7:00～7:20 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>

7.その他

次回の放送番組審議会を、4月3日(火)に開催することを決めた。